ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

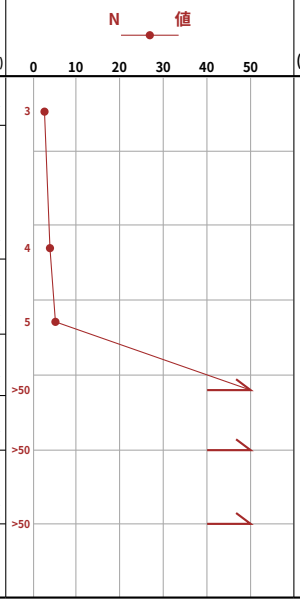
シートNO.

ボーリング名	B-No.4	調査位置								北　緯	36 ° 59 ' 37.6700 "
発注機関	栃木県　大田原土木事務所					調査期間	2008-12-13 ～ 2008-12-15			東　経	140 ° 09 ' 27.7900 "
調査業者名		主任技師				現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	281.91 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 25.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	6.00 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
	281.51	0.40	0.40		黒ボク (Kb)	黒			含水中位で非常に軟質である。植物根を混入する。		
1					ローム (Lm)	茶			含水・粘性共に中位で軟らかい。 層上部50cm間にφ10～30mm程の火山礫を混入する。 以深、均質さが伺える。 GL-2.8m付近より、凝灰質砂の塊状混入が見られ、土は幾分が硬化する。		
2											
3	278.46	3.05	3.45		溶結凝灰岩 (Wtf)	灰			GL-4.25m付近までは、風化・変質が岩芯にまで達し、コアは固結砂状で採取される。 以深、幾分か新鮮さが感じられ、コアは長さ20cm内外の棒状が主体となる。 亀裂に開口性のものは無く、頻度は低い。 風化・変質は割れ目沿いの軟化を伴う程度で岩体内部には及んでいない。		
4											
5											
6	275.91	2.55	6.00								12/21

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
0.30	1／15	1	1	3／35	3
0.65					
2.15	1	2	1	4／30	4
2.45					
3.15	1	2	2	5／30	5
3.45					
4.15	35	15／2		50／12	>50
4.27					
5.00	50／0			50／0	>50
5.00					
6.00	50／0			50／0	>50
6.00					



原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	掘進月日